INFORMATION AND KNOWLEDGE NEWS

情報知識学会ニューズレター
2001.12.1
59

情報知識学会事務局 発行 〒110-8560 東京都台東区台東1-5-1 凸版印刷(株)内 ISSN 0915 1133
TEL: 03-3835-5692 FAX: 03-3837-0368 E-mail: LDE01013@nifty.ne.jp http://www.jsik.jp

目　次

[報　告] 第6回SGML/XML研修フォーラム (根岸正光、石塚英弘、細野公男、菊田昌弘) 1
[論文募集] 第10回研究報告会論文募集 ..... (中川優) 5
[お知らせ] 月例懇話会のこと ..... (平田周) 6
[会員便り] 海外留学先から ..... (池田聡史) 7
[お知らせ] 事務局から 8

[報告]

第6回SGML/XML研修フォーラム

概況報告

実行委員長　根岸正光（国立情報学研究所）

情報知識学会主催のSGML/XML研修フォーラムは、今回その第6回として、2001年10月29日、30日の両日、グランドヒル市ヶ谷において開催された。本年は、政府によるe-Japan計画の策定など、行政側での動きが急であることから、『電子政府と市民生活』を基調テーマに掲げ、行政関連の現況報告を盛り込んだ。一方、XMLの普及、浸透に期待が集まる中で、その幅広い応用分野に対応して、情報通信技術、経営情報システムあるいは行政電子化等々、種々の観点から、関連の業界団体等においても、XML対応の研究、検討が進められつつある。そこで、こうしたXML関連の諸団体に講師の派遣を仰ぎ、各団体における中心テーマとその検討状況について紹介し、それらの全体像を明らかにすることにより、XML応用の現況が把握できるよう企画した。さらに、W3CにおけるXML規格起草者による最新動向の紹介、台湾の先進的電子政府化事例の紹介など、海外動向の把握にも留意したプログラムとした。最近の不況の深刻化を反映してか、参加者は50名程度に止まったものの、わが国におけるXMLの普及にとって、十分有意義な会合になった思われる。

第1日午前の部

＜XML関連団体の動向＞

座長　根岸正光（国立情報学研究所）

渡辺榮一「XBRL の最新動向」は、XML による企業の財務情報の標準化をめざす「XBRL Japan」からの報告である。XBRL は、Extensible Business Rorting Language に由来する命名で、これは財務情報を交換するための言語である。第 3 回 XBRL 国際会議は 10 月 22〜26 日にシドニーで開催され、これに日本からの代表として参加した渡辺氏により、まさに最新の動向が紹介された。すなわち、国際会計基準用 XBRL タクソノミー、XLink ツールなどの動向である。しかし、わが国では XBRL への関心が、とくにその具体的利用者となるべき金融機関の間で低く、対応が遅れがちであるのが憂慮されるとのことである。

伊藤昇「電子購買コンソシアム」は、日本における電子商取引のうち、B2B（事業者間取引）市場の活性化をめざして設立された「電子購買コンソシアム」からの報告である。B2B に関しては、すでに Rossetta Net などのように、特定産業分野のサプライチェーンの構築が進められつつあるが、これらは直接材を対象としており、間接材の調達のための B2B には進展が見られない。同コンソシアムでは、この点を解決するべく、日本の商慣習に即した標準の開発をめざし、具体的には、電子カタログと電子商取引プロセスの標準化、金融決済サービス等の付加価値サービスの共通インターフェースの開発を当面の目標として活動しているとのことである。

溝口邦雄「ebXML の目標と取組み」は、XML を応用した EDI (Electronic Data Interchange) を推進している「電子商取引推進協議会」からの報告である。わが国では従来から EDI への取り組みがなされてきたが、これは閉域型ネットワークである VAN を利用した大企業間取引が主体であり、中小企業も参加したものではなかった。そこで、インターネットと XML の進展という新たな技術環境を活かして、中小企業でも使用できる次世代 EDI の普及が急務となっている。この場合、単に Web を利用した簡易な情報交換では、処理の自動化が図れず、XML を導入した XML/EDI によって、本格的な EDI の普及が見込まれる。それには関連規格の標準化が必要で、同協議会では関連国際団体との連携を図りつつ、その推進に取り組んでいるとのことである。

浅野健「XML Publishing Forum：設立趣旨・現状・展望」は、本年 5 月に設立された「XML Publishing Forum」の会長自らによる、同フォーラムの活動報告である。この団体は、DTP 業務のマックから Windows 機への移行を研究するための「Windows DTP フォーラム」を前身とするもので、昨今の状勢にあわせて、印刷出版業界における XML ビジネスの振興を図ることを目的として再発足した。ここでは、コンテンツビジネスに関わる関係者を幅広く結集し、新たな業種概念の設定とそのビジネスモデルを追究する。当面 3 年間の時限的組織として、この間に業界としての標準案の提示に持ち込むべく、経営、ビジネスプロセス、技術調査、技術実用化等の各部会において、熱心に研究を進めているとのことである。

小島英輝「Web/XML/電子フォーム活用による電子申請への具体的アプローチ」は、「電子申請推進コンソーシアム」により推進されている、地方自治体等における申請、届出事務の電子化について報告したものである。市民から自治体への各種申請書類等は、個別的に電子化しても、そのメリットは少ない。例えば住民票は転居に際して自治体間で回付する必要があるから、全自治体での標準化が伴わなければ電子化の意味がない。同コンソーシアムでは、XML Forms Architecture なる技術により、全国的に標準化された電子書式を設定、共用することを提案している。これは規定の様式として紙に印刷することができるし、また電子データとして直接的な情報交換も可能な方式で、電子自治体の実現に向けて、現実的アプローチとして期待できるとのことである。

鈴木俊宏「XML コンソーシアム」は、XML を用いたシステム、サービスの普及、啓蒙を推進する同コンソーシアムの活動現況の報告である。本団体にはソフトウエア企業、システム・インテグレータ、IT ベンダー等 200 社以上がすでに加盟しており、基盤技術、応用技術、システム／ビジネス・モデル、ドキュメント、Voice XML というテーマ別の部会を設置して、調査

研究を行っている。今後、XML を応用したいわゆる「Web サービス技術」が有望であることから、各部会とも目下これに向けて調査研究活動を強化しつつある。今後、関連各団体との連携を図り、わが国における XML 普及啓蒙の中核的団体として活動してゆきたいとのことである。

第１日午後の部

座長　石塚英弘（図書館情報大学）

第一日目午後の構成は次に示すとおりである。

＜基調講演＞電子政府と市民生活　　大橋有弘（明星大学教授）
＜ XML と電子政府＞
・電子自治体と XML　　西村 健（ドキュメント・エンジニアリング研究所）
・台湾の電子政府　　Fisher Lee (DynaComware Corp.)

基調講演者の大橋氏は総務庁在職中に法令 DB の公開ほか数々の新しい施策を実現された方で、電子政府の分野のパイオニアの一人である。そのご経験を基に、電子政府の理念から、関連する施策、プロジェクトの意味付け、推進上の諸課題に至るまで、市民（民間諸団体、民間事業者を含む）生活と関連付けて講演された。

行政手続きの実態、申請・申告等手続きのオンライン化、官民共通基盤としてのインターネット、行政情報の電子的提供、自治体の電子化、one-stop-service/non-stop-service から、例えば、郵便局で運転免許の更新や旅券の申請・入手ができる any-stop-service への進化の提唱、住民基本台帳制度の個人の電子認証の基盤としての可能性、情報公開法、個人情報保護法、等々内容は多岐に渉ったが、その論旨は明快で、挙げる事例は具体的であった。会場からの質疑と応答も有益であった。　その次の講演者の西村氏は長年の自治体勤務を経てソリューション提供者となった方である。中央による政策支配体制から分権型国家構造への転換を図る行政改革という視点から、自治体が XML によってどのような情報・知識のプラットフォームを構築すべきかについて、(1)e-Japan による「知識創発型社会の構築」への要件と行政情報化、(2) 電子政府と自治体、(3)XML によるドキュメント・マネジメントの３点から考察した。活力ある地域づくりの政策志向マネジメントを支える情報インフラ整備を目指して、XML に基づく文書の電子化を行い、それによって情報・知識を共有化し、業務改革を行うべきであるとの趣旨である。これは電子自治体の基本方針たりえるだろう。　Fisher Lee 氏は台湾の電子政府の現状とプロジェクトを紹介し、次いでそれらを支えるために彼の会社が開発した技術である DynaDoc、漢字の外字サーバ、漢字 OCR を用いた大量文書のデジタル化などを紹介した。彼は英語で講演したが、解りやすい英語であり、日本と同じく漢字を使用する国の電子政府・電子ドキュメントの話とあって会場からの質問も相次いだ。

DynaDoc は portable document format の一種で、２バイトコード文字を前提としている点が特徴であり、そのファイルに外字も含めて文字フォントを埋め込むことができ、XML 対応とのことである。外字サーバは文字フォントを提供することによってインターネットでの文書交換の問題点を解決するものである。なお、予稿に書かれていないプロジェクトとして今年から始めた e-Post がある。郵便を発信者から受信者の最寄の郵便局まではデジタルデータで送り、郵便局で印字・封筒に入れて人手で配達するサービスで、同一文面を一般人多数に送る時に有効だろう。

これら３件の講演は何れも際立った特徴を持ち、有用な情報を与えるものであった。

第２日午前の部

座長　細野公男（慶應義塾大学）

第２日午前の部は、「XML と電子政府」のテーマで、政府および自治体からの合計４件の講演、「電子政府と市民生活」、「電子自治体の実現」、「電子都庁の実現を目指して」、「電子市役所へのアプローチ」があった。最初の講演は、経済産業省産業技術環境局標準課の立場にたって、工業標準化の視点からみた XML およびそれに係わる動きを考察したものである。具体的な内容は、e-Japan 戦略の基本的方針と分野別施策、XML 関連テーマ、情報標準化戦略、工業標準化の意義である。XML 関連テーマに関しては、国土交通省の電子納品要領など各省の取り組み、GIS との連携、ビジネスオブジェクトと XML などが紹介された。２番目の講演では、総合行政ネットワークの特色・導入効果・構築スケジュール、公的個人認証サービス制度を創設する必要性、XML を使用する電子申請の汎用受付システムなどが紹介された。このうち汎用受付システムに関しては、地方自治体側の取り組み、導入効果、実験スケジュール、運営方式、メリットと課題が取り上げられ、当該システムが機能する際のインターネットの有効性、さらに市役所や郵便局をこのシステムにアクセスするための窓口として使用する可能性などが、論じられた。3 番目の講演では、東京都における情報化の歴史的推移、電子都庁構築の背景、電子自治体実態調査、東京都における IT 化への取り組み、電子文書標準化に関する報告がなされた。標準化については、文書総合管理システムでの XML が検討されていることが紹介された。さらに現行の法律、条例、規則が電子都庁の実現を阻む一要因であること、電子都庁が都庁の組織に及ぼす影響などが論じられ、これらを踏まえた将来の課題として、電子都市の概念が紹介された。4 番目の講演では、横須賀市における電子市役所計画およびその具体的な実践例が紹介された。電子市役所の意義とビジョンが語られた後、既に稼動している電子入札システムと Web-GIS（地理情報システム）の詳細な説明とともに、現在実験中であるまちづくり総合カードシステムの紹介が行われた。このうち総合カードシステムは、IC カードを使用してたとえばバスの乗車券、診察券、図書利用カードなど住民が持つ各種のカードの統合化を図ろうとするものである。あわせて個人認証システムの整備やカードの安全性など、このシステムを実現するための課題や方策が論じられた。XML が日常業務の遂行の場でも大きな力を発揮しつつあることは、以上の講演からも明らかである。会場での質疑応答にもそれが反映され、数年前のフォーラムでは考えられなかったような具体的な論議がなされた。我々の生活に XML が不可欠な技術となっていることを示す証左といえよう。

第２日午後の部

座長　菊田昌弘（(株) シナジー・インキュベート）

本セションでは、わが国行政機構全般にわたる電子化に向けて、電子申請に対する XML への適用、電子入札の枠組みに関する２件の講演の後、XML の誕生以来、常に中核的立場で活動してきた Tim Bray 氏による XML の現況に関するビデオテープでの講演があった。

丸井一也「電子申請用 XML 様式の設計ガイドライン作成への取り組み」では、平成 10 年度以来、経済産業省からの委託を受け、ニューメディア開発協会が開発を進めてきた電子申請に対する XML の適用の方途についての報告がなされた。平成 15 年度までに、１万を超える行政手続を電子化するとの政府の方針にあって、市民と行政との間をつなげる電子申請は、重要課題のひとつであり、これまでの開発の成果と今後の課題について、詳細な説明がなされた。

山本隆彦・村井重雄「国土交通省の入札情報サービス」では、2001 年４月より開始された国土交通省の電子入札手続に関して、民間側委員として参加した立場、ならびに実際に業者側の立場から同手続きを利用する立場からの紹介がなされた。特に、利用する民間業者、また調達

情報を整備する行政の立場の双方を知る立場として、それぞれの問題意識の差異に関して興味深い報告がなされ、活発な質問もなされた。

本フォーラムの最後の講演として、Tim Bray 「The Web, XML, and What's New」がビデオによってなされた。XML の誕生をもっとも良く知るひとりとして、XML に関わる標準化の重要性と困難さの紹介、また現状において、XML が WEB 構造に対してどのように展開されてきているかについての詳細な説明がなされた。さらに、これまでの XML の取り組みにおいて、見過ごされてきた問題について提起がなされた。具体的には、これまで XML がサーバとサーバ間、またデータベースとアプリケーションとの間の情報交換構造として用いられつつも、もっとも数が多いクライアント、すなわち WEB ブラウザとサーバ群との間に関しての XML の適用方法について、検討すべき課題が多いとの指摘がなされた。関連して、氏が取り組んでいる XML による情報のマッピングに関する先進的な取り組みの紹介が、実際のシステムの動きをまじえてなされ、新しい XML への取り組みの観点を示唆するものであった。

……

［論文募集］

情報知識学会第 10 回（2002 年度）研究報告会
発表論文募集について

実行委員長　中川 優 (和歌山大学 システム工学部)

今年は政府主導で IT 予算がつき、地方にも IT の波が押し寄せています。今までパソコンに興味があっても使えなかった方々も、パソコン講習会に参加し、奮闘しています。また、近い将来には GB ネットワークも全国に広がる勢いです。この機会を捉えて、地方独自の情報発信をしてみませんか。

21 世紀は、良質なコンテンツと高速ネットワークがカギになるとも言われています。各地で、住民の力を集めた知的情報ネットワークを構築し、互いにコンテンツの流通、利用を進めようではありませんか。

情報知識学会では、以下の項目 1 から項目 3 の要領で、恒例の研究報告会における発表を募集します。来年は平成 14 年 5 月 18 日（土）に総会とともに研究報告会を東京都内で開催 いたします。振るって御応募下さい。

1．応募方法

（1）応募の際に必要な項目

・発表論文題目
・著者名（連名の場合、登壇発表者名に○印、但し登壇発表者は情報知識学会会員に限ります。当日入会も可能です）
・所属
・該当する公募テーマ（項目 3 参照）
・論文の概要（200 字程度で記述）
・連絡代表者の氏名
・連絡先の住所、電話／FAX 番号、電子メールアドレス
・予想される論文掲載ページ数（ワープロ A4 判でのページ数）

（2）応募先（電子メールにての応募を推奨）
〒640-8510　和歌山県和歌山市栄谷９３０
和歌山大學システム工学部　中川 優
E-mail: nakagawa@sys.wakayama-u.ac.jp　FAX:073-457-8077

2. 応募期限と採録のお知らせ
応募期限は２００２年２月末日といたします。採録された論文の発表者の方々には、平成14年3月末日までに予稿作成依頼（執筆要領等は学会誌４号で掲載予定）のご連絡をいたします。

3. 公募するテーマ
（1）文化財資源などのコンテンツのディジタル化、利用技術
（2）ネットワークコラボレーション、電子コマースなどの実現
（3）情報・知識の構築、モデル化、検索、データマイニング
（4）電子出版、電子図書館・資料館・博物館などの実現
（5）デジタル・コンテンツの流通と知的所有権
（6）その他

.....

「お知らせ」

月例懇話会のこと

平田　周（月例懇話会担当理事）

人にはそれぞれ、自分が所属するコミュニティがあり、そこで多くの人たちと毎日接している。しかし、知らない人との出会いは、新たな可能性を生む。ましてそれが志や興味を同じくする人たちの場合であれば、なおさらのことである。インターネットが盛んになればなるほど、なま身で人と接することが大事になろう。

そういう趣旨で、毎月第１火曜日の夜、情報知識学会のメンバーが集まって、談義を楽しんでいる。「情報・知識」に関心のある人であれば、誰でも参加できる自由な集まりだが、残念ながら、あまり人が集まらない。たぶん忙しいということが理由なのだろうが、忙しい、時間がないと言って自分の穴の中に閉じこもっていては、身近なところにあるかもしれないせっかくのチャンスを見過ごしてしまいかねない。

会合の場所である世界貿易センタービル（ニューヨークのワールド・トレード・センターよりも早く建設され、姉妹関係にあった）の38階からは、眼下に賑わいを見せる竹芝桟橋からの船の出入りを見、隅田川河口に浮かぶ屋形船の行き来を眺め、その向こうに、いま人気のお台場のイルミネートされた観覧車が望める。同じように、離れたところから、自分の居場所を眺めることで、新しい可能性を見いだせるのではなかろうか。ぜひそういう集まりにしたいと願っている。

今年開いた月例懇談会の話題と講師は次のようでした。

２月６日　根岸正光氏（当学会副会長、国立情報学研究所教授）

「ビブリオメトリックスから見た研究評価・大学ランキング」
3月6日　藤原譲氏（当学会副会長、工業所有権総合情報館理事長）
「計算機の基本課題と次世代情報システム」
4月3日　細野公男氏（当学会副会長、慶應義塾大学教授）
「情報学とは何か」
6月5日　太田康弘氏（当学会理事、文教大学非常勤講師）
「専門用語研究とは何か － その課題と研究の最前線）
7月3日　平田　周氏（当学会理事、ＩＴ経営研究所所長）
「情報の新しい概念 － 可能性と情報」
9月4日　深見拓史氏（当学会評議員、廣済堂・専務執行役員）
「ｅラーニングはどうなるか － 技術と市場」
10月2日　月見里禮次郎氏（当学会監事、多元空間「えんがわ」代表）
「えんがわ的情報学」－ 情報学は集めることから始まる
11月6日　岩渕幸雄氏（当学会理事、日本創造学会理事）
「政府関連機関が直面する情報問題 － 電子政府）

会員の方々には、ｅメールで月例懇話会開催のご案内をしています。もしメールで連絡が可能な方は、当学会事務局まで、メール・アドレスをご連絡下さい。多くの方々が積極的に参加され、盛り上げていただきたいと切に願っております。また、会合で、こんな話題を提供して議論してみたいと思われる方がおられたましたら、ぜひお知らせ下さい。

なお、12月4日は、今年最後の会合になりますので、今年をふり返りながら、忘年会をかねて、自由に懇談したいと思います。お待ちしています。

……

［会員便り］

海外留学先から

池田　聡史（特許庁）

情報知識学会　平田　周　様

情報知識学会会員の特許庁の池田聡史です。今年7月より客員研究員として、米国カリフォルニア大学サンタバーバラ校（ＵＣＳＢ）で行われているアレキサンドリア電子図書館という研究プロジェクトに参加しております。http://www.alexandria.ucsb.edu

上記プロジェクトはJAVAとXMLを用いたデータベースの開発を行っており、私たちにとっても大変参考になるものではないかと思います。

さて本題ですが、ここ異国の地で毎回、月例懇話会のメールを楽しみにしております。

１１月の月例懇話会では岩淵さんがお話されたそうで、貴重な機会を逃してしまったことが残念でなりません。

岩淵さんには私が工業技術院の電子計算機利用技術開発室（通称、利用研）で仕事をさせていただいたときに大変お世話になりました（もう５年も前のことです）。

情報知識学会の1997年の第5回研究報告会（５月）で私が拙い研究報告をさせていただいたときにも、例えばＳＧＭＬ検定制度などのアイデアを教えていただき、岩淵さんの先見の確かさには今でも舌を巻く思いです。

http://angelos.info.kanagawa-u.ac.jp/jsik/AnnualConf/TableofContents.html

ところで、気になる米国の状況ですが、９月１１日のテロから２カ月が過ぎました。相変わらず、マスコミは大騒ぎをしておりますが、少なくともここサンタバーバラでは全ての人々は今までと何ら変わらない生活を送っていると言っていいかと思います。

確かに街角や車の窓に国旗を掲げる人は増えました。しかし、テロや炭疽菌などの恐怖におびえている人もいなければ、日常生活でそれが特に話題に上ることもありません。穿った見方をすれば敢えてそのようにしていると思えるかもしれませんが、今のところはそういう見方をするのは少々、的はずれなような気がします。

以上、とりとめのない内容となってしまいましたが、これからも月例懇話会の報告を楽しみにしております。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

……

［お知らせ］事務局から

■ホームページのＵＲＬが簡便になります。

来年（2002 年）1 月 1 日から、情報知識学会ホームページのＵＲＬが簡便になります。新しいＵＲＬは、http://www.jsik.jp です。jsik は本学会英文名 Japan Society of Information and Knowledge の略です。最新情報はメーリングリストでお知らせすると同時に、このホームページに掲載していますので、ぜひ、ご覧ください。従来の http://angelos.info.kanagawa-u.ac.jp/jsik/main.html も使用できます。

■メーリングリストへ登録のお勧め

情報知識学会会員約 360 名のうち、現在、その 3 分の 2 にあたる約 220 名のかたが、メーリングリストに登録されています。学会誌・ニューズレターだけでは迅速に連絡できない「お知らせ」を送信します。（例：月例懇話会）電子メール・アドレスをお持ちの会員は、事務局（LDE01013@nifty.ne.jp）へメールで登録申込みをなさるようお勧めします。既登録者も、アドレスを変更された場合は再度ご連絡ください。

■情報知識学会/案内リーフレット改訂版完成

今回同封した三つ折りリーフレツトは、平成 13～14 年版です。裏面の入会申込書は、A4 サイズに広げれば、そのまま FAX 送信できます。情報知識学会は大勢のかたがたの入会を歓迎します。どうぞ、お知り合いやお近くのかたをご紹介ください。その場合、入会金は免除されます。入会者をご紹介くださった会員は、年会費が 1 件につき 4 千円減額されます。

■年会費納入のお願い

平成 13 年度年会費未納のかたは、至急、下記の口座へお振込みください。ご自分が納入した年月日は、このニューズレターの封筒に貼ってある宛名ラベルの最下行をご覧になれば分かります。納入年（西暦下 2 桁）と月（2 桁）日（2 桁）が印字してあります。

・郵便口座　00150-8-706543　情報知識学会（代表　藤原鎮男）
・三和銀行秋葉原東口支店　普通預金　3606590　情報知識学会（会長　藤原鎮男）

なお、三和銀行は来春、銀行名・支店名・口座番号が変わりますが、その際は改めてお知らせします。

……

■　編集後記

健康診断の結果，肝臓がちょっと危ないらしいことが判明しました。不健康な生活を続けているので致し方ないのですが，これ以上悪くもしたくないので，アルコールを止めました。以前は毎日のように飲んでいたのですが，止めてみると，飲まなくても特に苦痛でもないようです。

おかげさまで，今週は３回も禁酒してます。禁酒の合間はどうしているかって？そいつは聞いちゃいかんのですよ。

ニューズレター編集委員　　山下　泰弘